

ちば森林づくり計画（第1期）

# みんなで支える、 美しいちばの森林づくり

ーシン・リンギョウ/ベッドフォレスト構想ー



## 背景

- ①現在、千葉県では令和元年房総半島台風等による被害森林の復旧・再生に優先的に取り組んでいる所であるが、間伐などの適切な整備が行われていない手入れ不足の森林は増加傾向にある。
- ②令和元年から「森林環境譲与税」の譲与が開始されたが、制度の主体となる市町村による森林整備が進まないことが課題となっている。



市町村主体の森林整備を促進し、森林環境譲与税の活用に対する県民理解の醸成を図るため、将来にわたる森林の保全と持続可能な森林資源の活用を定めた中長期計画を策定し、これをもとに県、市町村などの関係機関連携による森林整備の枠組み作りや取り組みを進める必要がある。

## 目的

千葉県では、将来にわたる森林の保全と持続可能な資源利用等を定めた「ちば森林づくり計画」を策定し、森林整備等の新たな財源である森林環境譲与税を適正に運用し、効果的に森林づくりを推進することとしている。

「ちば森林づくり計画」の策定に向けた県と市町村の計画実施のための枠組み作りや連携を促進させるための施策提言等をとりまとめるところまでを本業務の目的とする。



# 本計画の立ち位置と期間、対象森林

## 【本計画の立ち位置】

### < 県内の各種計画、条例 >

- ・千葉県総合計画
- ・千葉県農林水産業振興計画
- ・千葉県地域森林計画（千葉北部森林計画区、千葉南部森林計画区）
- ・「美しいちばの森林づくり」に向けて
- ・森林の風倒被害対策の技術資料（案）
- ・千葉県林地開発制度
- ・千葉県里山条例

など

## ちば森林 づくり計画

### < 全国の関連施策、社会的背景 >

- ・森林環境譲与税（森林環境税）
- ・森林経営管理制度
- ・2050年脱炭素社会実現に向けたロードマップ
- ・ネイチャーポジティブ実現に向けたロードマップ
- ・SDGsロードマップ

資料調査・分析、関係者意見集約

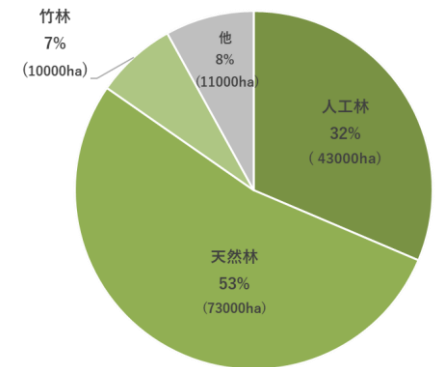
## 【本計画の期間】

長期計画を25年として考え、第1期中期計画を5年間、第2期、第3期の中期計画をそれぞれ10年間として中期計画ごとに基本施策等の内容の見直しを行う。なお、第1期中期計画を5年間としたのは、令和元年の台風被害や森林環境譲与税を受け各種施策を展開してきた5年間を含めた10年間として本計画を反映させるためである。

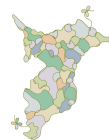


## 【対象森林】

千葉県の森林148,328haの内、人工林約43,000haを対象とする。



# 千葉県的外部環境（機会・脅威）と内部環境（強み・弱み）



|    | 強み   | 弱み   |
|----|--|--|
| 機会 | <p>【積極化戦略】機会を強みで最大限に活用する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市近郊で人口、交流人口が多い。</li> <li>森林環境譲与税（予算）は十分にあり、今後の活用方針は明確</li> <li>少数ではあるが地域ごとの森林整備に関する計画策定や広域連携の事例がある</li> </ul>   | <p>【段階的施策】機会を弱みで取り逃さないよう段階的に強みにする内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2030年までにネイチャーポジティブへの転換を目指す等、世界的に環境保全や生物多様性に係る取り組みは強まっているが潮流に乗れていない</li> <li>技術的支援が可能な人材や組織を有しているが体系化しきれていない</li> <li>森林分野におけるICT技術が普及してきているが、活用しきれていない</li> </ul> |
| 脅威 | <p>【差別化戦略】強みで脅威を機会にかえていく内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気象災害の脅威はあるが、被害林は明確に把握できている状況</li> <li>立地が良い場所は継続的に林地開発が行われる可能性はあるが、近接異業種との接点は作りやすい</li> <li>人家やインフラに隣接する林縁林が多く、倒木リスクはあるが、アクセスしやすい</li> <li>人工林資源が充実してきているが手入れが不十分</li> </ul> | <p>【専守防衛・撤退】致命傷を回避する、または清く撤退する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>挿し木を主体とした林業地が多く、特定の病虫害や災害被害に弱い</li> <li>林地開発等による整備が多く、燃料用材の生産割合が高い（製材用材生産力は比較的低い）</li> </ul>   |

## 特筆すべき点

- 人口減少時代、東葛、湾岸ゾーン、空港ゾーンの人口流入が多く、都市圏に近いことから多くの交流人口が見込める。
- 平均標高が47都道府県で最も低く（45m）、傾斜が緩い民有林面積が多い。（潜在的な立地優位性）
- 木材生産も重要であるが、近年ではより生物多様性、健全な生態系確保に向けた国家単位の動きが強まっている。（2030年のネイチャーポジティブ、2050年のカーボンニュートラル等）
- 自然、農林水産資源の豊富さと立地優位性のバランスから、観光による地域経済循環も見込むことができる。



# 本計画の理念と軸（重点目標）

理念

## みんなで支える、 美しいちばの森林づくり

—シン・リンギョウ/ベッドフォレスト 構想—

産業の姿

森林の姿

重点  
目標

### 「シン・リンギョウ」 の確立

### 「ベッドフォレスト」 の構築

- ① 統合型森林政策/  
中間支援組織の拡充
- ② 広域連携モデル事業の横展開
- ③ 立地優位性を活かした森づくり  
人口(トータル林業)の創出

- ① 資源ストック
- ② 県民の生活を守る  
安全・安心の林縁管理
- ③ 生物多様性の優先

5つの基本方針

4つの施策方針



# 重点目標について

## 産業の姿

### 「シン・リングョウ」 の確立

統合型の森林政策による専門人材の最適配置と  
木材生産だけに頼らない森林業

#### ①統合型森林政策/中間支援組織の拡充

- 環境性・経済性・社会性を統合した施策による多様な森林づくり
- 森林監理の中核を担う専門人材の最適配置
- 県・市町村連携による方針決定と森林環境譲与税活用の最適化

#### ②広域連携モデル事業の横展開

- 地域特性（森林率や人口、事業者数等の特徴）を活かした市町村間の連携
- 【モデル】  
CO<sub>2</sub>吸収量、木材利用、森林空間の利用、流域

#### ③立地優位性を活かした 森づくり人口(トータル林業)の創出

- 都市部との距離等の立地優位性を活かした多様な人を森林と繋げる取組
- 森林空間を利用した森林業  
(里山活動、森林環境教育、アドベンチャーリズム)

## 森林の姿

### 「ベッドフォレスト」 の構築

林縁を中心に経済軸と環境軸で見たゾーン設定による  
脱予定調和型の森林監理

#### ①資源ストック

- あえて寝かせる資源  
(長伐期施業による需要拡大時の対応準備)
- 眠っている資源の発掘  
(老舗林業の技術再構築、ICTを活用した資源把握)

#### ②県民の生活を守る安全・安心の林縁管理

- 電力事業者と連携し防災上重要なインフラ施設周辺の森林整備を優先的に実施
- 風倒リスクを低減する災害に強い森林づくり

#### ③生物多様性の優先

- 木材生産に適さないスギ・ヒノキ林については、千葉県  
の郷土・気候にあった多様な樹種から成る森林へ誘導する



# 5つの基本方針と3つの施策方針

## 5つの基本方針（第1期）

1. 【組織】千葉県森林経営管理協議会の機能拡充と市町村支援体制の強化
2. 【予算】森林環境譲与税の1/2以上を森林整備に活用
3. 【人材】担い手育成と森林業への参入障壁緩和（異業種を含む参入者の拡張）
4. 【計画】都市、森林地域（大中小規模森林）の特徴に沿った市町村の実行計画作成と広域連携
5. 【技術】ICTを活用した森林資源の把握とゾーン（環境・経済）設定

## 施策方針（統合型施策と3つの森林づくり）

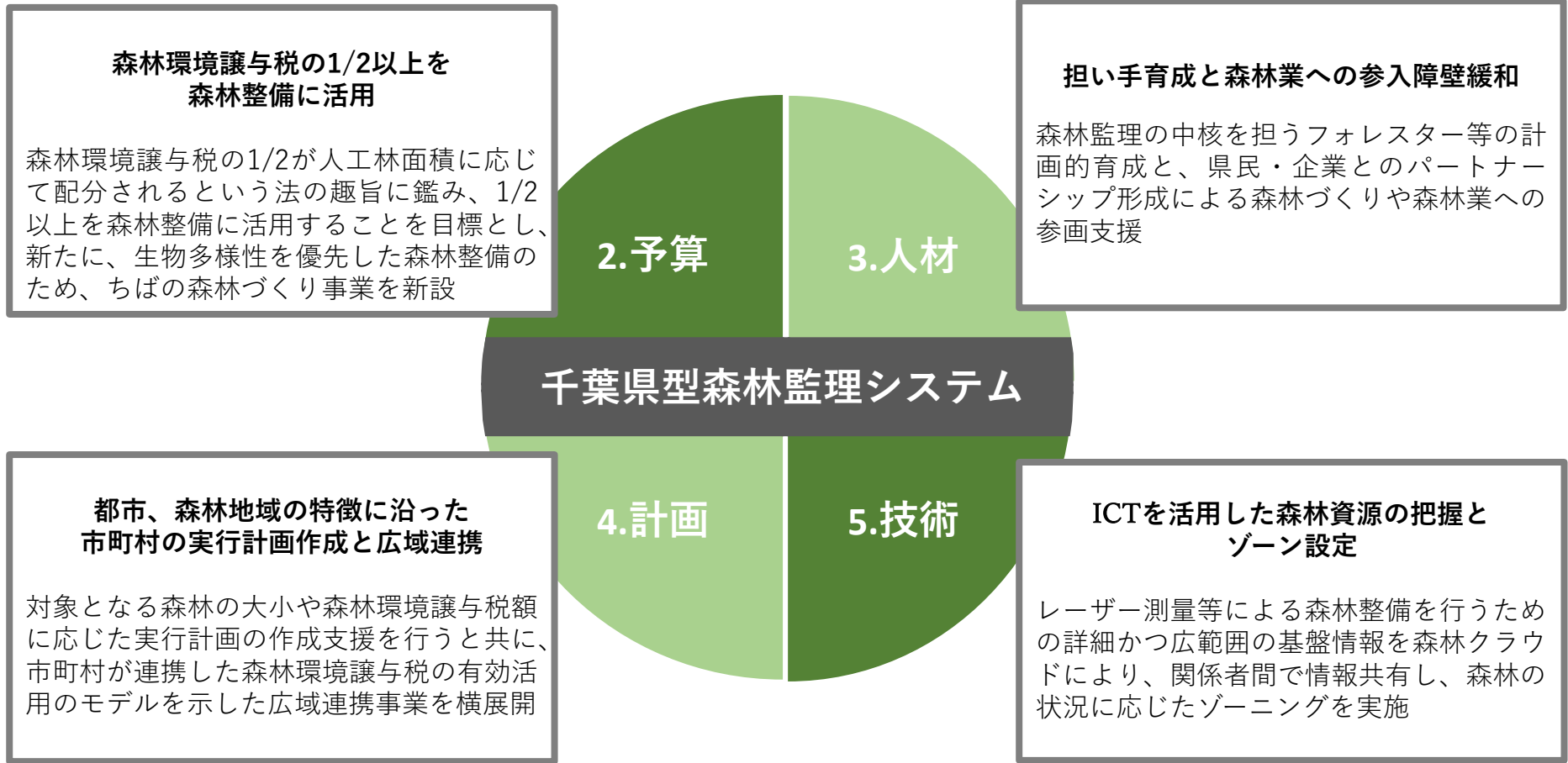
| 統合型施策  |  |   |
|--|--|---|
| ①千葉県型森林監理システムの構築<br>②ICTを活用した基盤情報の整備<br>③広域連携事業の展開   |  |   |
| 再興の森林づくり（環境性）  | 循環の森林づくり（経済性）  | 参画の森林づくり（社会性）   |
| ①ちばの森林づくり事業（新設）<br>②災害に強い森林づくり事業<br>③サンブスギ林再生事業  | ①森林吸収源対策間伐促進事業<br>②カーボンクレジットの活用<br>③木材利用の促進と販路開拓   | ①県民、企業とのパートナーシップ形成（環境教育、研修、福利厚生、環境配慮）<br>②事業体、事業者育成の強化<br>③森林空間利用の促進（里山活動+α）  |
| <div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 5px; text-align: center;">             ネイチャーポジティブへの貢献           </div> | <div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 5px; text-align: center;">             カーボンニュートラルへの貢献           </div> | <div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 5px; text-align: center;">             トータル林業の促進           </div> |



# 5つの基本方針について

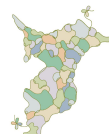
## 1.【組織】千葉県森林経営管理協議会の機能拡充と市町村支援体制の強化

市町村のマンパワー不足を補うため、計画から森林整備に至る一連の事務を制度化、市町村共通事務を一元的に取り扱うことができる、**千葉県型森林監理システム**を構築。森林環境譲与税を財源に、ICT技術を駆使し、森林総合監理士等の提案に基づいた市町村の実行計画を作成し、長期的な視点での森林監理を行う。





# 施策方針に関する中長期スキーム（特に重点的に進める施策と時期）

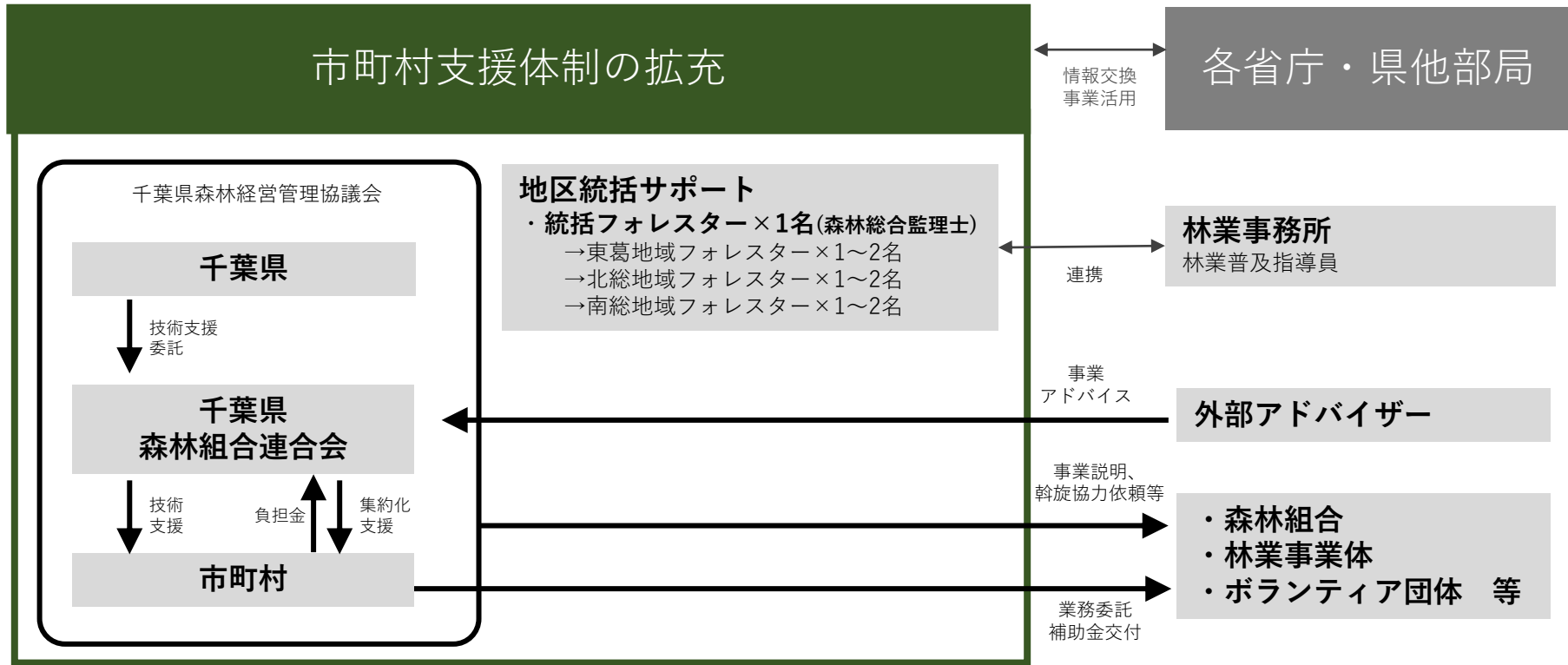


|                   |                   |  |  |
|-------------------|-------------------|--|--|
| 統合型施策             | 千葉県型森林監理システム構築    |  |  |
|                   | ICTを活用した基盤情報の整備   |  |  |
| 広域連携事業の展開         |                   |  |  |
| 再興の森林づくり<br>(環境性) | 災害に強い森づくり事業       |  |  |
|                   | サンプスギ林再生事業        |  |  |
|                   | ちばの森林づくり事業        |  |  |
| 循環の森林づくり<br>(経済性) | 森林吸収源対策間伐促進事業     |  |  |
|                   | カーボンクレジットの活用      |  |  |
|                   | 木材利用の促進と販路開拓      |  |  |
| 参画の森林づくり<br>(社会性) | 事業者、事業者育成の強化      |  |  |
|                   | 県民、企業とのパートナーシップ形成 |  |  |
|                   | 森林空間利用の促進         |  |  |



# 千葉県型森林監理システムの構築（役割、組織体制）

市町村で共通する事務を千葉県森林組合連合会（協議会事務局）が一括して担い、市町村が費用を負担する仕組みを構築し、森林総合監理士等の提案に基づいた長期的な視点で森林監理を行う。



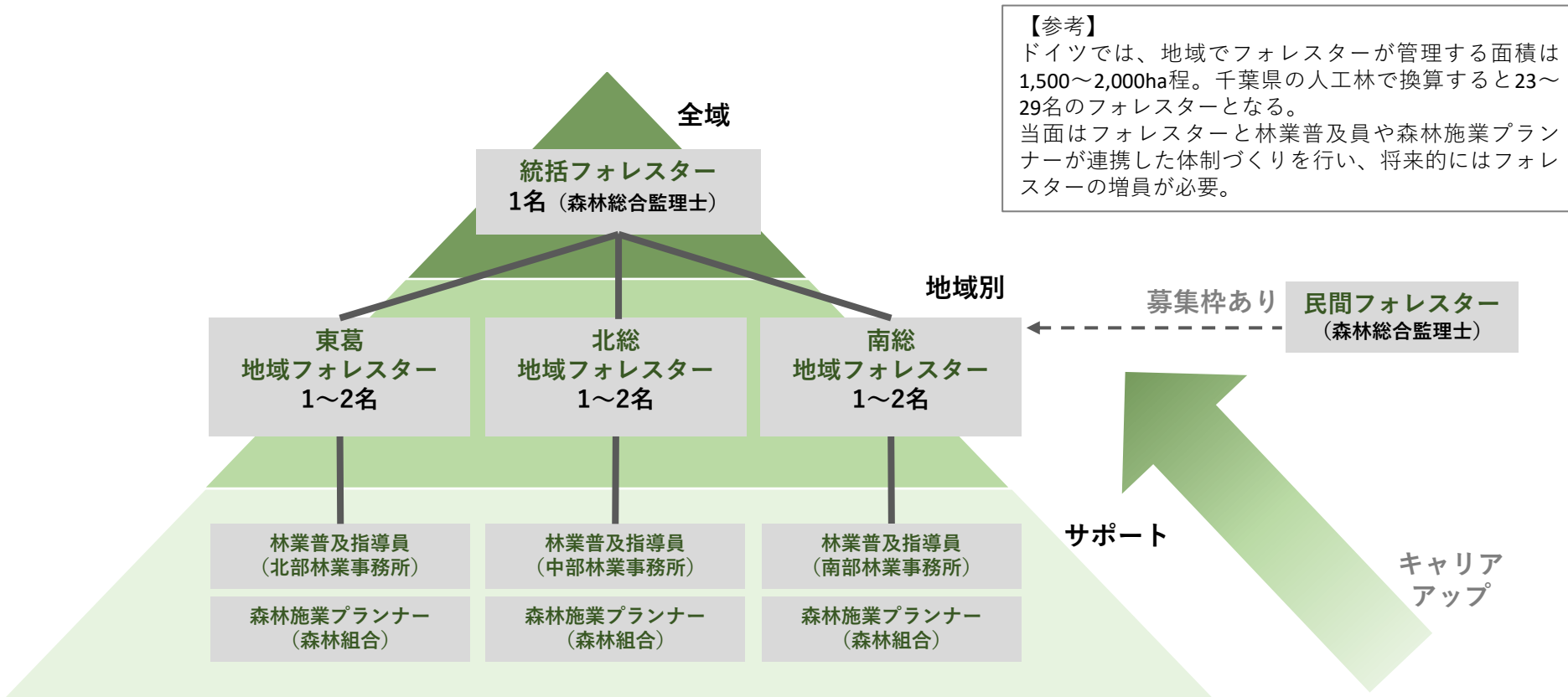
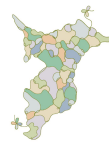
将来的には外郭団体を設置し、任意団体→法人化を目指す（長期専任で地域の森林を監理する体制を構築）

## 「能動的関係人口」の創出

各種事業体※異業種含む、一般住民

|               |               |                      |                |               |              |                  |                         |
|---------------|---------------|----------------------|----------------|---------------|--------------|------------------|-------------------------|
| オーナー<br>出資・所有 | フロント<br>管理・執行 | プロプレーヤー<br>職人・技術者・営業 | アマチュア<br>趣味・市民 | アルバイト<br>短期就業 | ボランティア<br>奉仕 | スポンサー<br>寄付（広告主） | アドバイザリーボード<br>経営支援・学術支援 |
|---------------|---------------|----------------------|----------------|---------------|--------------|------------------|-------------------------|

# 【補足】新しい監理システム（組織）の在り方について

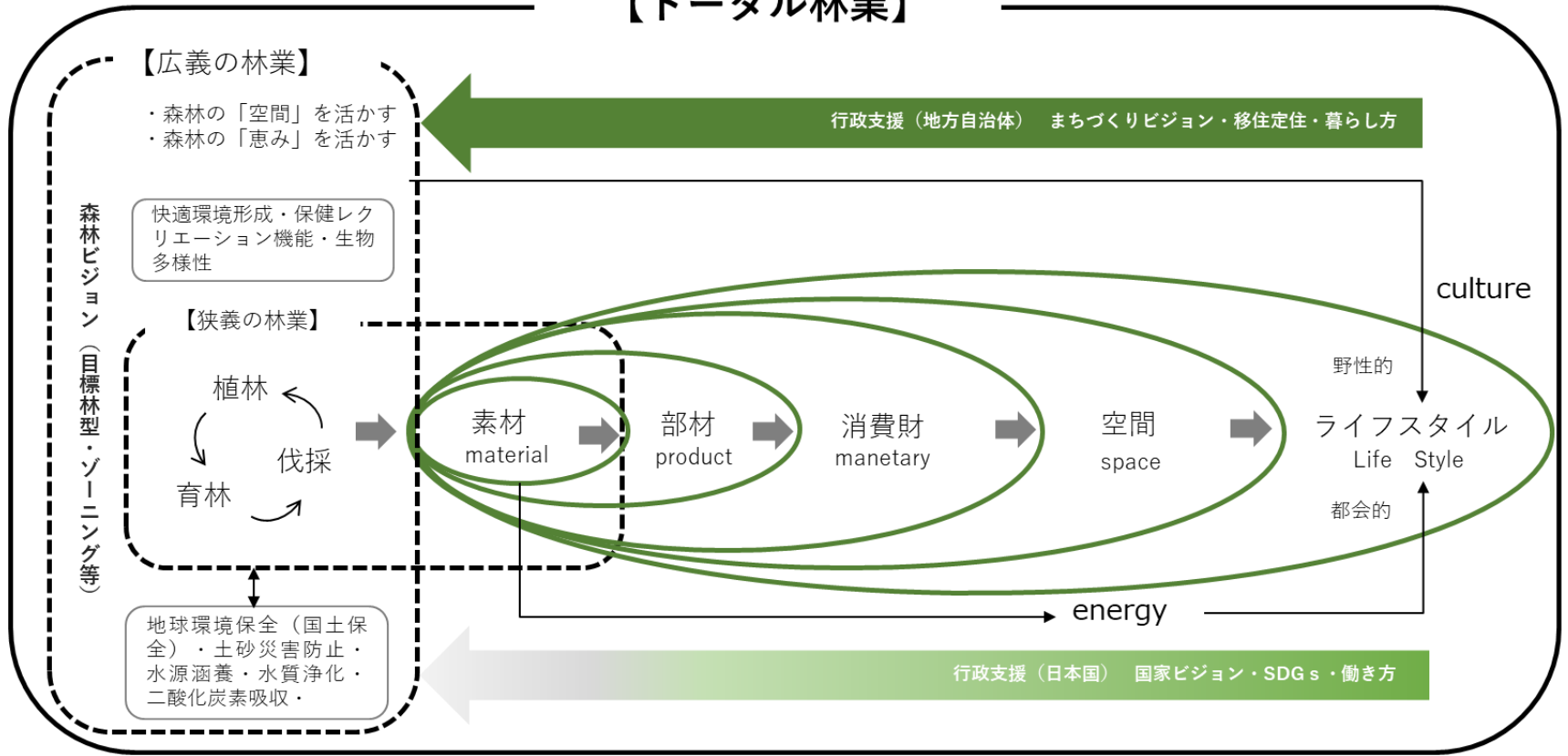


- ・ 統括フォレスターは、基本的に森林総合監理士の有資格者を配置
- ・ 地域フォレスターは、森林総合監理士の資質を有する者を選抜して配置可（将来的には資格取得）  
→ 地域に精通し長期的な森林監理が可能な民間フォレスターが望ましい
- ・ 地域フォレスターと各林業事務所の林業普及指導員が連携
- ・ 森林組合の森林施業プランナーがサポート
- ・ 森林監理の中核を担う統括フォレスター、地域フォレスターがキャリアアップの目標となるよう待遇確保



# トータル林業の構築とライフスタイル創造、「能動的関係人口」の創出のイメージ

## 【トータル林業】



主体的「関係人口」の創出と拡大へ

One team

- |               |               |                      |                |               |              |                  |                        |
|---------------|---------------|----------------------|----------------|---------------|--------------|------------------|------------------------|
| オーナー<br>出資・所有 | フロント<br>管理・執行 | プロプレーヤー<br>職人・技術者・営業 | アマチュア<br>趣味・市民 | アルバイト<br>短期就業 | ボランティア<br>奉仕 | スポンサー<br>寄付（広告主） | アドバイザーボード<br>経営支援・学術支援 |
|---------------|---------------|----------------------|----------------|---------------|--------------|------------------|------------------------|

植林、育林、伐採のサイクルを協議的林業、森林空間利用や森林の有する多面的機能を含む目標林型やゾーニング設計を広義的林業とし、さらに素材から部材、消費財、空間、人々のライフスタイル創造までの森林や木材の広がりをつとめて、このトータル林業の構築を目指す中で主体的「関係人口」の創造と拡大に繋がり、つまりは新たな関係性構築や様々な役割を持った関わり方の創造にも繋がるイメージです。